

県内外の自治体，団体等の生涯学習の取組事例

《学びを核として人と人がつながり地域を支える》

- 1 山元の未来への種まき会議（宮城県亘理郡山元町） 1ページ
- 2 公益社団法人MORIUMIUSの取組（宮城県石巻市） 2ページ
- 3 特定非営利活動法人さくら茶屋にししばの取組（神奈川県横浜市金沢区） 3ページ

《子どもと大人が学び合い育ち合う》

- 4 あかっこカンパニー（宮城県東松島市） 4ページ
- 5 富谷町教育委員会の地域・学校・家庭をつなぐ取組（宮城県黒川郡富谷町） 5ページ
- 6 益田市真砂地区の地域ぐるみの食育活動（島根県益田市） 6ページ
- 7 岐阜県立可児高校「地域課題解決型キャリア教育」（岐阜県可児市） 7ページ

《震災の教訓を次世代に確実に引き継ぎ，活かす》

- 8 みやぎアドベンチャープログラム（MAP）研究会（宮城県） 8ページ

《あらゆる人の学びを応援する》

- 9 オガールプロジェクト（岩手県紫波郡紫波町） 9ページ
- 10 女川フューチャーセンターCamass（宮城県牡鹿郡女川町） 10ページ

【活動の概要】

「山元の未来への種まき会議」は山元町の復興に関わる新たな「つながり」と「取り組み」を支援している。

震災後、山元町では多くの復興支援団体や個人が活動を行っていたが、団体間の情報共有や、町内外への情報発信を行う場が求められるようになった。そこで、平成25年7月に、復興支援活動を行う団体や個人が参加して種まき会議が開催された。これまでに、種まき会議によって生まれた横の繋がりを基にしたイベントの開催、地域住民の活動支援を目的とした交流拠点の運営を行ってきた。

種まき会議は2か月に1度開催され、山元町民、大学などの教育機関、民間企業、行政などから参加があり、平成28年7月で20回目の開催となる。

【特色ある取組】

◇複数団体の協働による菜の花を活用した観光イベント「黄色い架け橋」

(平成26年5月)

◇山元町社会福祉協議会と協働による「ボランティア／NPO支援センター」運営

(平成27年6月から)

◇若者有志による地域活性化イベント「山元はじまるしえ」(平成27年12月)

URL : <http://tanemaki.info/>



【活動の概要】

東日本大震災で被災した子どものケアと学習の機会を設けるために設立された。現在は石巻市雄勝町を中心に活動しており、子どもが体験を通じて感じて学ぶことができる場や様々な活動を提供している。地域住民との協働により地域資源を活用した学びの場を創造し、地域住民が主役となって運営することで、地域の再生にもつながっている。

平成27年には、子どものための複合体験施設モリウミアスを開館。

同団体は、平成26年度ふるさとづくり大賞（団体の部）総務大臣賞，日本経済新聞社第3回日経ソーシャルイニシアチブ大賞（東北部門賞），第13回オーライ！ニッポンフレンドシップ大賞，復興庁 先行事例 優秀企業賞を受賞。

（平成28年6月，「sweet treat 3 1 1」から「MORIUMIUS」へ法人名変更）

【特色ある取組】

◇ 子どもたちの複合体験施設MORIUMIUS

地元住民や全国のボランティアとともに2年半の歳月をかけ、延べ5,000人の手作業で築93年の廃校（旧 雄勝町立桑浜小学校）を改修。子どもたちの複合体験施設「モリウミアス ～森と、海と、明日へ～」として平成27年7月にオープン。

首都圏や海外、東北の子どもたちが、7泊8日や2泊3日の共同生活を通じて「多様性」を学び、また、地域と人から農林水産業などの一次産業や自然を体験することで「地域性」「持続可能性」を学ぶ。

世界中から人が訪れ交流人口を増やしており、雇用創出と過疎の地域経済を活性化する取組と自立型運営を見ようと全国各地の行政や企業・団体からの視察も多い。

URL : <http://www.moriumius.jp>



農業体験



漁業体験



林業体験

【活動の概要】

皆で支え合う街づくり，人と人の絆を深める活動の拠点として，平成22年5月，少子高齢化が進む西柴団地のショッピングセンターの中に「コミュニティカフェさくら茶屋」をオープン。地域住民の世代を超えた交流を促進し，安心・安全・やさしさと楽しさ溢れる街づくりを目指し，平成23年には特定非営利活動法人さくら茶屋にししばが設立された。

食を楽しむ「さくら茶屋」，多世代が集う「さくらカフェ」，人の絆を育む「ほっとサロン」を運営し，多世代が交流により，生き生きと心豊かに暮らせる街づくりを実践している。

平成27年度まちづくり月間国土交通大臣表彰受賞。

【特色ある取組】

◇ 西柴夜話（毎月1回）

地域の人が集まり趣味や特技を披露する交流の場。平成22年から継続して開催され，多彩なテーマ設定により，あらゆる世代の人が集い交流する場となっている。

◇ 支え合い活動

介護者の集い，認知症の方や家族が集まる「オレンジデー」

◇ 身体のケア・元気づくり

美容と健康づくりで人生をエンジョイする眉毛カット，お顔エステ，ハンドトリートメント。運動で健康と若さを持続する体操教室，ポールウォーキング。

◇ 子どもと多世代が触れ合う場

さくらカフェの子どもコーナーが幼児の遊び場所，放課後の小学生の居場所となっている。放課後は，元小学校の先生がスタッフとして常駐し，勉強もできる。

また，小学生が登校前の7時半から8時までの30分間，元小学校の先生が勉強を教える「朝塾」を実施。共働き家庭の子どものための「朝の学童保育」の役割も担っている。

URL : <http://sakurachaya.moo.jp>



朝塾の様子



【活動の概要】

矢本第二中学校区の小・中・高校生で構成された団体。平成24年に赤井地区自治協議会が、小中学生を対象に震災を受け止め未来の地域の姿がどうあるべきかを話し合う「ぼくとわたしの復興計画」を実施したことをきっかけに活動が始まった。

子ども自身が地域のために何ができるかを考え、「子ども朝市」を開催することを決定した。朝市の活動を通じて、地域に対する愛着心や帰属意識が生まれ、平成26年に「あかっこカンパニー」を設立。世代を超えた子どもと大人のつながりが生まれ、未来の地域づくりの担い手としての育成にもつながっている。

平成27年グッドデザイン賞受賞。

【特色ある取組】

- ◇ 平成24年、まち探検を実施。避難所運営、赤井の歴史、消防団や被災農家の仕事、市の復興計画を学び、未来のために何が出来るかを考え、『地域の大人も子供もみんなが喜べて交流できる場を作り、地元の野菜のおいしさを伝える「子ども朝市」を開催する』ことを「ぼくとわたしの復興計画」として策定。
- ◇ 平成25年、子ども朝市「赤井の野菜を食べてけらいん市」を開催。地元農家への仕入れ交渉やPR活動、販売までを子どもたちの手で行う。平成26年に会社（任意組織）化し、継続的な活動につながっている。



【活動の概要】

富谷町教育委員会は、「学びのまち富谷」をスローガンに学校教育や生涯学習施策を展開している。平成20年度より「地域とともに育つ学校」を目指して、町内5地区（中学校区ごと）の公民館に学校支援地域本部を設置し、町全体で地域・学校・家庭が連携して取組を推進している。各学校に派遣されている学校支援ボランティア、地域と学校をつなぐ地域コーディネーターは、地域を熟知している住民で構成され、様々な活動の調整・支援を行っている。

富谷町は新興住宅地を抱え、人口が増加し続けているが、学校と公民館が地域住民と協働することで、住民同士の絆が深まり。コミュニティが持続している。

【特色ある取組】

- ◇ 平成24年から、各中学校区ごとに「伝統文化」「生活環境」「読書」「ふれあい」「音楽」のテーマを設けて、学校と地域、公民館で子どもを育てる体制を構築。地域コーディネーターを中心に教職員、公民館職員が連携し、地域とともに育つ学校を目指している。
- ◇ ティーチーズスクールでは、小中学校の教員が講師となり、各々の特技を活かして保護者や地域住民に学びの場を提供している。

URL:

http://www.town.tomiya.miyagi.jp/html/school/eria_sch_tunagu/index_est.html



【活動の概要】

益田市の真砂地区は、公民館・学校・地域商社との協働のトライアングルによる地域運営の仕組み作りをテーマに掲げ、地域の生活基盤である農業を活用した食育活動を行っている。この取組が地域住民の理解・協力を得て地域に広がり、地域ぐるみで子どもを育む意識の共有や高齢者の生きがいづくり、地域活性化にもつながっている。

公民館は、学校支援と放課後支援のコーディネートを兼ね、地域における教育支援活動の拠点となっており、継続的な活動をサポートしている。

【特色ある取組】

- ◇ 地域農家が生産した様々な野菜を保育所給食食材として市内4保育所（園児300人、職員60人）へ「安心安全で旬な野菜」作りにこだわった野菜を提供。
- ◇ 子どもが地域の人と交流する真砂保育園里山保育「小さな福祉活動」や「一日屋外拠点」活動
- ◇ 学校・地域商社・PTAによる地元の安心・安全な食材を活用した商品開発の実践（「真砂バーガー」や「納豆マーボー丼・豆腐からげ」等の商品が開発され、地域商社より商品化）
- ◇ 学校・公民館・地域商社による真砂地区の商品の販売活動
- ◇ これら一連の活動は子どもたちの「ふるさと教育（地域を熱く語れる子ども）・キャリア教育（何ごとにも前向きな発想力）」の更なる推進に寄与している。

URL : <http://masagoplus.jp/kominkan.htm>



【活動の概要】

岐阜県教育委員会が立ち上げた「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業」（平成25～27年度）に可児高校も参加。「地域課題解決型キャリア教育を通して、学力向上・キャリア保障・地域再生を一体的に進めることはできないか」と可児高校から発信した提案が可児市議会に伝わり、同市議会の強力なスポンサーシップを得て、数多くの学びの場が実現した。

「子育て支援に関する意見交流」や「行政クロスロード」など、地域住民と高校生と一緒に学び、一緒に解決策を探ることを通して学力向上・キャリア教育・地域再生を一体的に推進する取組が行われ、高校生は地域学習を踏まえて政策提言を行っている。

【特色ある取組】

- ◇ 平成25年に、生徒が多様な経験を持つ大人と関わりながら地域課題の解決策を探る「地域課題解決型キャリア教育」（通称：エンリッチ・プロジェクト）を実施。平成27年は1年生全員及び2～3年生の希望者が参加した。
- 若い世代の大都市流出による地域衰退が課題となっている中で、若者が地域を知り、将来の担い手として育っていく仕組みとして注目されている。



【活動の概要】

MAPは、学校の授業をはじめ学級活動、部活動、学校行事等、また、地域における児童生徒の諸活動に課題解決型体験学習法の一つであるPA（Project Adventure）の考え方や手法を取り入れた宮城県独自の教育方法である。児童生徒の豊かな人間関係づくりを推進し、一人一人が課題解決能力と自己決定能力を身に付け「生きる力」を培うことを目的としている。

平成12年度に宮城県教育委員会MAP事業が開始されるが、同年度より、教育活動への効果的活用を研究し、実践していくことを目的として、興味関心をもつ仲間が自主的に集まり、MAP研究会が結成された。

東日本大震災を経て、子どもたちの心の復興の需要が高まり、研究会としてもMAPの手法を援用することで宮城の教育の一助となるべく取組んできた。

【特色ある取組】

◇ MAP研究会は、東日本大震災後、被災地でクラス運営に苦勞している教員向けに「体験ベースのクラスづくりワークショップ」を開催したり、MAPを通して児童・生徒の震災からの心の復興に関わり、グループアプローチでできる心のケア、レジリエンス（立ち直る力）を育む活動を実践したりしている。昨年度には県内の学校、教員の一助となることを目的として「『グループの力でレジリエンス～しなやかな心～をはぐくむ』みやぎアドベンチャープログラム活用法PLUS」という冊子を発刊し、県内の教育活動に取り入れている。また、研究会員が熊本地震支援活動に参加し、MAPの手法を子どもたちに提供してきた。



URL : <http://hiroy.kir.jp/map/>



写真：グループで相互の信頼関係を構築していく活動

【活動の概要】

官民連携により公共施設整備やまちづくりなど地域活性化を進めるプロジェクト。紫波中央駅前に、図書館、飲食店、産直マルシェ、音楽スタジオ、子育て支援センターなどが入居するオガールプラザ、イベント等が開催されるオガール広場、バレーボール専用体育館や宿泊施設があるオガールベースなどを整備した。町内外からあらゆる世代の人が集まり、新たな文化を育む地方創生のモデルとなる施設である。

【特色ある取組】

- ◇ オガールプラザの中核施設である図書館のユニークな取組
 - ・ 休館日でも予約した本を受け取ることができる貸出ロッカーの設置
 - ・ マルシェの食材に図書館お勧めのレシピ本の紹介を付ける
 - ・ 町の基幹産業である農業支援（農業に関する書籍の整備、農業専門データベース「ルーラル電子図書館」の利用促進など）
- ◇ 公民連携による魅力的な町づくりにより、世代を超えた人の交流が生まれ新たなコミュニティの場となっている。

URL : <http://www.ogal-shiwa.com/>



官民複合施設「オガールプラザ」の
全景



官民複合施設「オガールプラザ」と
緑の大通り「オガール広場」

【活動の概要】

女川フューチャーセンターCamassは「女川の未来を考える地域内外の交流施設」として、平成27年3月にオープンした。まちの行政、民間企業、起業家が集う有料のコワーキングスペースや会議室、町民や観光客が利用する無料の多目的スペースがある。

また、まちの課題や目指す未来について議論し、新しいアイデアや解決策を生み出す「フューチャーセッション」や各種イベントも開催されている。そのなかで出たアイデアで主体者がいる場合にはプロジェクト化して実行している。

新たなアイデアや関係を生み出す場として、町民の憩いの場として利用され、地域活性化の一助となっている。

運営は、震災後に設立したNPO法人「アスヘノキボウ」。

【特色ある取組み】

◇ アスヘノキボウは、女川フューチャーセンターCamassの運営のみでなく「お試し移住プログラム」「女川/地方に関わるきっかけプログラム」「創業本気プログラム」など、移住・創業支援等のプログラムを実施している。町内外の各セクターのハブ役として「人・モノ・カネ・情報」の循環を促すことによる地域活性化が期待される。

URL：

アスヘノキボウ ウェブサイト：<http://www.asuenokibou.jp>

女川で生み出す ウェブサイト：<http://onagawa-kikkake.jp>

女川フューチャーセンターCamass ウェブサイト：<http://www.onagawa-future.jp>

